

優秀賞

「ばあちゃんはおたすけまん」

妙円寺小学校 3年 新名主 あき

わたしのおばあちゃんはびようしです。わたしが生まれる前までは、びよう室をしていました。今は年をとったので、お店はしていませんが、たまに近所の人やお友だちが来て、かみを切ったり、そめたりしていきます。わたしの兄弟もおばあちゃんに切ってもらうこともあります。

夏休み、おばあちゃんの家に戻ってお店で遊んでいると、おばあちゃんが、

「あきちゃん。出ちょうセットを持ってきて。タオルは入っているかな。」

と言いました。わたしは、おばあちゃんが指さした先にあるバックを取りに行つてわたしました。

「はい、これ。何するの。出ちょうって、どこに行くの。」と、おばあちゃんに聞きました。

「ちょっと先のおばちゃんのおうちに行つてくるからね。すぐ帰ってくるからね。」

と、おばあちゃんが言いました。わたしがふしぎそうに見ていると、

「おばちゃんはね、足が悪くてね。1人でお出かけができないのよ。だからばあちゃんがおうちに行つて、かみを切ったりそめたりしてくるのよ。」

と教えてくれました。おばあちゃんはそう言いながら、ハサミやタオルのほかにもおかしやジュース、おばあちゃんが作ったおつけもの、何だかいろいろな物をふくろに入れてじゅんびをしています。

「おばちゃんはね、お買い物にも行けないから、いろいろ持っていくの。少しおばちゃんとおしゃべりして帰ってくるからね。」

おばあちゃんは、い動びよう室をしています。おばあちゃんが行くおうちは、何けんもあるそうです。わたしはいつも自分がお店に行つてかみを切ってもらうので、びようしさんに、おうちに来てもらうことができるんだと知つてとてもおどろきました。お父さんにその話をすると、

「ああ、そうだよ。お父さんが小さいころも、ばあちゃんは出かけて行ってたよ。お父さんもついて行って、そこのにわでよく遊んでおやつをもらったな。なつかしいな。」

とにこにこして教えてくれました。

「できる人ができることを、できるときにする。それだけのことよ。」

とおばあちゃんは言いました。わたしには何ができるのだろう、と考えてみました。わたしはお話をするのが好きなので、

「今どわたしが帰ってきたときにおきやくさんがあったら、つれて行って。お話したりいっしょにおかしを食べたりしたい。」

と、おばあちゃんにおねがいしました。おばあちゃんはわらっていました。どんなおばちゃんたちに会えるか、わたしは今から楽しみです。

